

◆巻頭言◆

全国環境研協議会の活動を通じ
多様化・複雑化する環境問題に対応

静岡県環境衛生科学研究所長 神山正之



本年度、全国環境研協議会の会長を務めさせていただくこととなりました。静岡県環境衛生科学研究所長の神山と申します。全国環境研協議会の会員機関の皆様には、日頃から環境問題の解決に向けた調査研究に御尽力賜り、深く感謝申し上げます。

また、昨年11月末に中国で発生した新型コロナウイルス感染症の日本国内での拡大に伴い、皆様の中には調査研究業務の制限を受けているところもあるかと存じます。未知の感染症との闘いは一朝一夕には解決できませんが、皆様の不断の努力が諸問題の解決に結びつくものと考えております。皆様には体調管理に十分注意していただき、業務にお取り組みいただくと幸いです。

静岡県環境衛生科学研究所は、昭和57年に旧衛生研究所、旧公害防止センター及び旧中央消費生活センターの統合により静岡市に「静岡県衛生環境センター」として設立された研究機関であり、平成9年度から現在の名称になっております。その名のとおり、地方環境研究所の機能と地方衛生研究所の機能を併せ持っており、環境分野は環境科学部及び大気水質部が、衛生分野は微生物部と医薬食品部がそれぞれの業務を担っております。

当研究所は設立から35年以上経ち、庁舎の老朽化が進み調査研究業務にも支障が始まったことから、4年前から移転に向けた準備を進め、今年3月に新庁舎が竣工となりました。新庁舎は藤枝市の郊外に位置しており、入浴剤で有名な会社の工場が東隣にあります。北側に国道1号線藤枝バイパスのインターチェンジがあることから、自家用車での通勤に便利な場所です。新庁舎では、安全実験室の拡充、環境中の微量物質の試料調整を専門で行うクリーンルームの設置、各研究室に分散していたLC/MS、GC/MS等の測定機器を効率的に活用するための機器専用の部屋の設置等、調査研究機能の充実を図っております。現在、7月の開所に向けて移転作業を進めているところでございます。

さて、環境問題は年々多様化・複雑化しており、解決に向けた課題が山積している状況です。特に地球温暖化に代表される気候変動対策は喫緊の課題であり、気候変動影響の緩和への取組みと、適応への取組みが両輪とな

って機能することが重要であります。

静岡県では、平成31年3月に策定した「静岡県の気候変動影響と適応取組方針」に基づき、当研究所内に静岡県気候変動適応センターの機能を設置しました。当研究所では、熱中症に注意すべきエリアの抽出、高山帯希少種の生息環境把握、県内河川の濁水傾向についての統計的分析等、気候変動影響に関する調査を行っております。また、今年度は国民参加による気候変動情報収集及び分析事業として、柑橘類栽培農家への気候変動影響に関するヒアリング調査、小中学校において視覚的な熱中症注意喚起システム等の実証試験、気候変動適応策の啓発ツールとしてカードゲームの開発などを進めていきます。地域気候変動適応センターとして、今後も県環境政策課や国立環境研究所と連携しながら、地域の気候変動に関する調査や、適応策の検討を進めてまいります。

その他、富士山や南アルプスからの豊富な地下水を活用しエネルギーの地産地消を進める研究、海岸域におけるマイクロプラスチック汚染実態に関する研究、光化学オキシダント濃度推移の長期的動向に関する研究、地下水の汚染状況に関する研究等環境分野の様々な研究に取り組むとともに、大気汚染物質の常時監視、公共用水域の水質の常時監視、自動車騒音調査、新幹線・鉄道騒音振動の調査、未規制化学物質の環境実態調査等の調査及び試験検査を行っております。

会員機関の皆様におかれましては、環境問題に様々な方法、アプローチで取り組まれているものと存じますが、地方環境研究所単独での取組にも限度があります。全国環境研協議会の活動を通じ、皆様が抱えている課題や悩み、解決に向けたアイデアなど、様々な情報を共有し、会員機関の皆様の業務の推進に寄与していきたいと考えております。今後とも全国環境研協議会の活動に御理解と御協力をお願い申し上げます。